

## 平成 30 年度 ちょうふのぞみ保育園事業計画書

乳幼児の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に推進することを前提とする。乳幼児の人間形成の基礎を培う大事な時期。年齢に応じた発達を踏まえ子どもとの信頼関係をもとに、一人ひとりを大切にし、心身ともに健康的な保育を心掛けて参ります。

家庭や地域社会と連携を図り、多様な価値観を尊重しあつての親育ち、主体性が育つ物的・人的環境のもとでの子ども育ち、安心して地域の中で子育てができる育ちあいの場づくりを職員一同踏まえて保育を心がけていきます。

○年齢に応じた発達を踏まえ、子どもとの信頼関係をもとに一人ひとりを大切にし、個々の発達にあわせた保育を心がけます。

○生活や遊びを通して、異年齢の関わりを深め、子ども同士の育ち合いを見守ります。

○子どもの目線に立って、感動する柔らかな感性を持ち、豊かな自然と親しむ保育をしています。

○子どもの育ちを支えながら、保護者と子育ての喜びを共感していきます。

○子どもを一人の人間として認め、尊重していきます。

### 1 施設運営

#### (1) 児童の処遇

##### ア クラス編成

クラス名	年齢	常勤保育士数	定員数	園児数	備考
たまご	0歳	3	9	9	
ひよこ	1歳	2	12	12	
かるがも	2歳	2	17	17	
おうむ	3歳	2	17	17	
こばと	4歳	1	17	4	
めじろ	5歳	1	18	3	
フリー		1			
合計			90	62	

※職員の人数は現況の園児数に合わせた職員配置となっています。

##### イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
24	24	26	25	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	24	23	23	25	

## ウ 保育方針

- ・あたたかい見守りの中で心地よく過ごせる環境を提供していく。
- ・ひとりひとりの良さを伸ばせるように育ちを援助していく。
- ・静と動のメリハリのある保育をしていく中で、心と体のバランスをとれるようにしていく。
- ・家庭との連携を密にして信頼関係を築き、子育ての楽しさを共感し合う。
- ・地域・保育園・家庭が支えあって子育ての輪を広げていく。

## エ 各組の保育目標

### めじろ組(5歳児)の年間目標

- ・まわりの人との関わりの中で、達成感や満足感を感じ、意欲的に生活する。
- ・体や病気に関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身につける。

### こばと組(4歳児)の年間目標

- ・保育者や友達と一緒に遊ぶことに喜びを持ち、関わりを深め、集団としての行動が出来るようになる。

### おうむ組(3歳児)の年間目標

- ・園生活の流れや生活の仕方が分かり、自分で身の回りのことをしようとする。
- ・自分の興味、関心、思いを自分なりの方法で表現する。
- ・体を十分に動かしていろいろな動きのある遊びを楽しみ、心地よさを味わう。

### かるがも組(2歳児)の年間目標

- ・保育士との関わりの中で身の回りの事も自ら挑戦していく。
- ・生活の中で言葉を習得し、自分の言葉で表現する。
- ・他児への関心が芽生え、保育者の仲立ちにより、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。

### ひよこ組(1歳児)の年間目標

- ・安定した生活リズムの中で食事・排泄・身の回りの事等の基本生活を身につける。
- ・信頼できる人間関係の元、興味や好奇心を育み、様々な経験をする。

### たまご組(0歳児)の年間目標

- ・安全で心地よい環境の中で、一人ひとりの生活リズムを大切にしながら安心して過ごす。
- ・表情や仕草、泣き声を受け止めてもらい、人との関わりを喜び、保育者との信頼関係を築く。
- ・見る、聞く、触れるなど五感を使って遊ぶことで、周りへの興味や関心を広げていく。
- ・戸外遊びを通して自然に触れたり、身体を動かして探索活動を楽しむ。

## オ 健康管理

子ども一人ひとりの発育発達の個人差（個性）を考慮しながら、健康な生活習慣を身に付け、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組み、且つ保護者への情報提供も行い、保育所と家庭との連携をしっかりと、子どもの発育を促していく。

- [1] 日常養護・健康管理
- [2] 病気の予防と早期発見
- [3] 安全と事故防止
- [4] 健康増進と保健指導
- [5] 環境衛生

## 年間保健行事

	各対象年齢に応じたもの
乳児健診	0歳児（月1回）
内科健診	全園児（年2回）
歯科健診	全園児（年2回）

※年2回の内科健診に欠席などにより受けられなかった園児は、乳児健診時に受けられるようにしている。

カ 主な行事予定  
別途添付

キ 食事

[1] 目標 ・食物に関心を持ち、食べることが好きになる。

配慮事項 ・保育者も一緒に食事をし楽しい雰囲気を作る。  
・苦手なものを食べてみようとする気持ちに促す。  
・よく噛んで食べられるようにする。  
・収穫物を使ったクッキングが楽しめるようにする。  
・自分の健康に興味を持ち偏食せずに食べることで健康を維持できるということを知らせる。

[2] 食育

- 毎月 月 ー 予定献立表の配布。アレルギー児には栄養士と保護者でアレルギー児用の献立を確認している。  
誤食を防ぐため、栄養士、クラス担任、保護者とアレルギー面談を通して確認する。個人ファイルを作成する。食品の受け渡しの時はそれぞれが声を掛け合い、指差し確認しその都度チェックをする。
- 給食だより ー ちょうふのぞみ保育園の食事の紹介や栄養情報などをまとめ  
月 1 回発行する。
- 栄養士のお手紙 ー 日々の給食献立の中から、栄養士から子どもたちに分かるように食育に関係する手紙を発行する。
- 食を考える ー 月 1 回行われる給食会議にて、献立や提供された食事の感想や反省、改善案などを出し合いよりおいしい食事作りに取り組み、食育を含め食全般についての勉強、話し合いの場としている。野菜作りを通して成長を知り、収穫の喜びを味わう
- 展示 食 ー 登校園玄関にその日の給食の見本を展示する。

[3] 衛生管理

- 衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目に沿って確認している。
- 調理人の細菌検査(毎月 1 回、夏季のみ月 2 回) 調理室の掃除、ワゴン清掃(毎日)、ワゴンカバー洗濯(週 1 回)、冷蔵庫消毒、食器洗浄後熱風庫にて保管原材料・調理済み食品の保存(2 週間)をしていく。

ク 安全管理

非常災害時の避難訓練、消火訓練（毎月）  
防犯訓練（毎月）  
引き渡し訓練（年1回）  
安全チェック実施

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

施設長	1名
主任保育士	1名
保育士	9名
保育士パート	1名
保育補助	2名
調理員	3名（栄養士含む）
事務員	1名
嘱託医	1名（非常勤）

イ 健康管理

健康診断 1年1回  
細菌検査 毎月

ウ 職員会議

- ・職員全体会議毎月1回
- ・クラス会議毎月1回
- ・リーダー会議毎月1回
- ・カリキュラム会議毎月1回
- ・給食会議毎月1回

エ 研修計画

別途添付

オ 退職・福利厚生

- ・福祉医療機構退職共済制度加入
- ・整体

## 2 施設管理

### (1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

### (2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

### (3) 備品関係

ア 備品購入予定

新規園により別途添付

### (4) 災害対策

ア 避難訓練、消火訓練

毎月1回

イ 不審者対応

年1回

ウ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

エ 非常食糧の備蓄

$(\text{全児童数} + \text{全職員数}) \times 3 \text{食} \times 2 \text{日分}$

## 3 保護者にむけて

### (1) 保育への理解と協力の促進

ア 保育参加

一年を通し、保護者からの申し出により、希望に応じ行っている。

イ 個人面談

個人面談については、乳児5～6月、幼児は11月に行っている。

日々の子どもの様子を伝えたり保護者の気持ちを確認して保育に役立てる。

ウ 保護者会

年2回予定

エ お知らせ

- ・園だより毎月1回以上発行
- ・クラスだより随時発行
- ・保健だより毎月1日に発行
- ・給食だより、献立表、栄養士のお手紙毎月1回発行

#### 4 地域社会との連携

- ・同市の保育所と連携をとり、子どもたち同士の交流が出来るようにしていく予定
- ・近隣のグループホームを園行事にご招待したり、月1回程度お誕生日のお祝いや、七夕、などの折に歌や遊戯をしに伺うなど、積極的に交流する。

##### 《世代間交流》

- ・地域の小学校・中学校・高等学校と連携を持ち、ボランティア・職業体験・子育てボランティアの育成を積極的に受け入れる。

##### 《情報提供収集による支援》

- ・園便り、また関係機関等からの情報を掲示板に張り出し、子育て中の親子に提供する。
- ・園外（地域など）から意見も取り入れられるよう情報把握や提供を行っていく。  
また、民生委員や保健福祉センターとの連携もとっていく。

##### 《園内活動への参加》

- ・その他、随時寄せられる育児相談（電話・来園）に対しても温かく対応し、親身になって対応する。
- ・園で主催する餅つき等を地域の方むけにも開放し、地域の親子との交流を図るとともに子育てからのリフレッシュを図る。